

[050] 史淵表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2335367>

出版情報 : 史淵. 50, 1951-12-28. Faculty of Literature, Kyushu University
バージョン :
権利関係 :

九州史學會昭和二十六年年度

秋期學術大會

九州史學會恒例の秋季學術大會は西日本史學會福岡支部と共同主催の下に十二月一日(土)、二日(日)の兩日、福岡學藝大學久留米分校において開催された。第一日午前九時半より日本史部會、外國史部會に分れて研究發表を行い、午後二時より懇談會に移り有益な意見が活潑に開陳された。第二日は前日に引續き郷土資料展覽會が行われたが、貴重な資料がよく集められていて多數の見學者あり、午後は一時より公開講演があり、なほ同時に行われていた九州考古學會の壹岐、立花村夜白發掘に關する幻灯映寫を見學し散會した。公開講演並びに研究發表の題目は次の通りである。

公開講演

太宰府文化の傳統と天滿宮
西歐十三世紀のカトリシズム

長沼賢海
小野 菽

日本史部會

「耽奇慢錄」について
西郷隆盛の精神醫學的研究
一英人の見た幕末・明治史觀
江戸時代に於ける都市の日雇について

内山田參郎
王丸 勇
井上 忠
古賀芳博

中世武家法に關する一考察
橋本左内の政治運動とその理念
平安前期の淨土思想

外國史部會

侍衛親軍の名稱と由來
唐代の夫について
遼代に於ける權場貿易の二問題
パラティナに於ける逃亡ユグノーについて
ローマ帝政初期に於けるイタリヤの穀物生産について
ジェファーンソンの財産權思想とジョン・ロック
京西路開發に見る陳靖の勸農策について
ユグノーについて
太監・亦失哈の正體

菊池英夫
松永雅生
平島貴義
外村民彦
森 祐三
服部哲郎
河原由郎
益田健次
江島壽雄

研究發表要旨(到着分のみ)

一英人の見た幕末・明治史觀

井上 忠

幕末から明治初期まで二十餘年間滞在し多くの新聞を編集したジョン・ブラックの「ヤング・ジャパン」に於ける徳川慶喜觀と明治新政府觀に於て、講座派以來となえられたこの時代を日本の絕對主義時代とし、この兩政權を「二つの絕對主義の對立」とする見方が既に明白に現れていることを指摘する。なお著者は新政府の本來の性格を攘夷派とし、それが神戸事件を介して和親策へ豹變したと解

するが、こうした解釋に導く諸因子を新政府は多分に宿していたわけである(詳しくは近く雑誌「日本歴史」に發表の豫定)。

江戸時代に於ける都市の日雇について

古賀芳博

所謂錢遣ひの傾向の強くなつた江戸中期以後の農村は打續く天災の打撃をうけて一層疲弊し封建的束縛を敢えて破つた零細農は都市に流入して農村出稼人として生活する様になる。その中には日傭として働く者達が居たがそれを福岡藩について調べたもので資料としては博多津要録、森田家文書(福岡藩日雇頭を天保以後行)福岡縣史々料其の他を用いた。

中世武家法に關する一考察

杉谷昭

中世初頭に成立する武家法はその淵源を公家的法秩序の系統に屬する武家政所下文に求めることが出来るが、公家法と共に武家法も慣習法體系であり、律令の日本化實用化は、九世紀半ばにおける「格」によつてすで行はれ、その太政官符に初見する特色ある事書形式は宣旨、下文、新制等に繼承され、武家法典にも存續する。故に武家法は法系上「格」以來の慣習法化した日本の公家法を母胎とし社會經濟史的基盤を得て武家法に成長する。

橋本左内の政治運動とその理念

山口宗之

ペリー渡來直後の緊急國內改革案として誕生した將軍建儲運動の現實的理論的中心人物であり、且これと運命を共にした橋本左内の行動の理念は、一橋慶喜を繼承に定めることによつて、我が國を世界の強國たらしめんとしたその積極的對外策の具體的實現を希求せるに在る。而して又かくすることに、彼は幕權を強化し、將軍の威令を恢復せんと圖つたのであつた。

平安前期の淨土思想

深溝徳味

天台を源流とする淨土教の發生時代たる平安前期(九・一〇世紀)の淨土思想は、願生者の入信時期の早晚、往生業の純・不純などの相違によつて、三つの形態(A)(B)(C)に類型化され得る。(A)は特徴的な社會的基盤をもたないようであるが、(B)は天台と貴族社會(男性)を、(C)は天台以外の僧侶と貴族社會(女性)をその基本的な社會的基盤として成立したものとされる。

西歐十三世紀に於けるカトリシズム

小野 教

十三世紀はカトリシズムが歐洲社會の凡ゆる面に發展した時代であるが、その要素となつたギリシヤの學問思想は、アラビヤ人を經て、十二世紀急速に西歐世界に研究され理解された。之は既にヒューマニズムの思想が西歐にあつたからである。而して新興學問は、十三世紀ギリシヤ思想がキリストに教化せられて大成した神學哲學を中心とするペリー大學と、ローマの傳統のキリスト教化の現われ

と云ふべき聖會法 (Canons) を中心とするゴロニア大學とに、夫々異つた特色を發揮しながらも、而も同じく國際的色彩を以つて高度に進んだ。之は中世クリステンダム (Christendom) の特色を示すものであり、ローマ教皇の超國家的統一政策、世界布教政策乃至は知的神裁政治の方針とも合致し、フランシスカン、ドミニカンの如き世界的規模と活動性とをもつ修道會の活躍と相俟つて、教皇、大學、修道會三教結合の裡に、中世カトリシズムは十三世紀に於て、その發展の頂點を作るのである。かくて從來東地中海中心の文化は西歐中心となつたのである。然し乍ら、十三世紀に於けるカトリシズムの眞の意義は、心靈修業を目的とする修道院的内省的信仰態度を、何ら自然を枉げることなく、人間性を生かしながらもつことをアツシージの聖フランシスコに依つて、植えつけられた事である。即ちヒューマニズムの精神が高揚せられた事である。此の精神が新興學問の科學的態度と共に、ルネッサンスへ結び付くのである。

史學懇話會

○第三十八回 十一月十五日(木)

日蓮の宗教形式に關する史的考察

米西戰爭に關する一考察

—モンロー主義から帝國主義への移行—

○第三十九回 十一月二十四日(土)

「人民黨運動 (Populist Movement)」

○第四十回 十二月六日(木)

十六世紀イングランドの農民抗爭

川 添 昭 二
奈 賀 博 史

宮 野 啓 二

空 尾 昭 忠

五代禁軍の發展について

第四十一回 十二月十一日(火)

十二月五日より東洋史臨時講義 (中國周邊史) を擔當された東京大學助教榎一雄氏の歡迎會を兼ねて小會議室で開催。先生の研究體験を善さに説明され、多大の感銘を受けた。參會者二十五名、座談も活潑で盛大であつた。

東洋史學科の動向

東洋史研究會

第二十回例會 (昭和廿六年十二月八日)

最近に於ける中央アジア史の進歩

榎 一 雄 氏

東京大學から臨時講義に來學の榎一雄先生に日頃疏遠な中央アジア史の新しい研究成果についての消息を伺つた。

先ず第一次大戰前の探檢蒐集の史料について引續いて行はれてゐる整理の状況を、テキストの注釋出版の方面からと、テキスト解讀の再検討の方面からと紹介があり、第二次大戰後の西トルキスタン調査 (主としてソ聯邦と佛國の) の状況にまで言及された。

昭和二十六年第二學期(四月—十月)

史學關係講義題目

西洋史

西洋史概説(十九世紀篇) 小林 教授

西洋史特講(理論歷史學) 同

演習(A) A. Mathiez: La Révolution française 同

(B) O. Hintze: Der moderne Kapitalismus als historische Individuum 同

東洋史

東洋史(五代史) 日野 教授

東洋史特講(小高句麗の建國) 同

演習 同

東洋史(史籍解題) 鈴木 教授

演習(陸宣公奏議) 同

國史

國史(中世貨幣流通史) 森 教授

演習(吾妻鏡) 同

演習(圓太曆) 同

國史(古文書學) 竹内 教授

國史(莊園の發達) 同

演習(古文書學) 同

日本思想史(近世思想史) 西尾 講師

國史演習(切支丹文化研究) 檜垣 講師

人文地理學 三上 講師

西洋哲學史 田邊 教授

西洋哲學史 德里エ 講師

西洋思想史 ヘルマン 講師

西洋法制史(ドイツ) 吉田 教授

外交史(近世日本外交史) 具島 教授

英國近代政治思想史の 竹原助 教授

日本法制史 石井 講師

西洋經濟史 宮本 教授

經濟學史 高木 教授

昭和二十六年度十月十九日以降

交換受贈雜誌目錄

法學論叢 第五七卷 京大法學會

藝林 第二卷第五號 藝林會

人文地理 第三號第四號 人文地理學會

資源科學研究所彙報 第二二號 大阪市立大學

人文研究 第一〇號 文學會

史學雜誌 六〇編一〇號 東大史學會

橫濱大學 第三卷第三號 橫濱市立大學

論叢 通卷一〇號 學術研究會編

山口經濟學雜誌 第二卷第二號

一橋論叢 十一月號 東京商大

文 第十六卷 東北文學會

國學院 第五二卷 大學院開設

經濟論叢 第二卷第三號 大分大學

經濟情勢 第三十七卷 三菱經濟研究所

考古學 第三十七卷 日本考古學會

雜誌 第三號

Kiotanese Buddhist Texte. By H. W. Bailey, M. A., D. Phil., F. B. A.

史學雜誌 六〇編 東大史學會

一橋論叢 十一月號 東京商大

史 觀 第六三册 早稻田大學

東洋文化 七 文學部史學會

經濟情勢 一九五二、三 三菱經濟研究所

No. 267